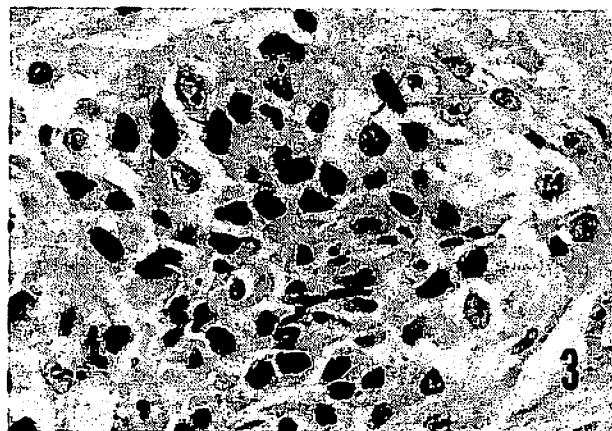
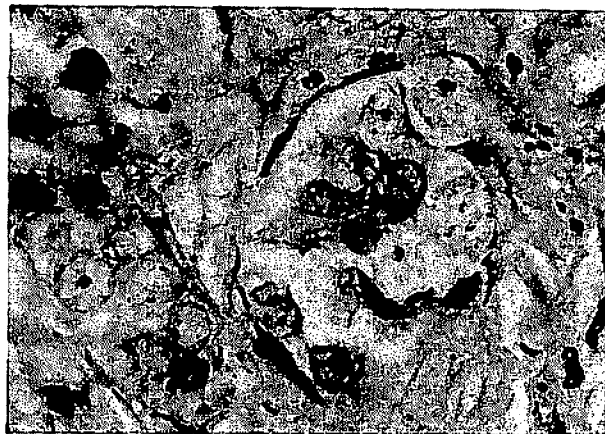
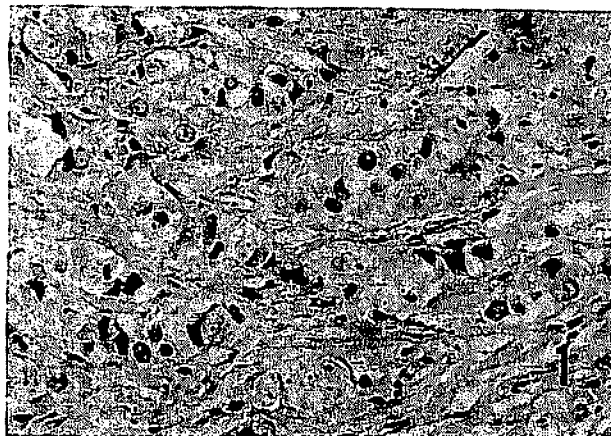


猫の頭部腫瘍

日本大学農獣医学部獣医病理学研究室 第24回獣医病理学研修会標本No.401



動物：ミケネコ，雌（子宮摘出），8才。

外部所見：頭部に厚さ約1cm，幅約2cmの帯状の腫瘍が前頭部から頭頂部にかけて，ほぼ正中線を中心に前後に長く位置している。また腫瘍のため，上眼瞼は圧迫され，目が細くなっている。その他外部に異常は認められない。

腫瘍の肉眼的所見：硬度は臍様で，灰白色を呈し，皮膚とは完全に遊離し，頭骨とは緊密に癒着している。その他内臓の所見は不明である。

病理組織学的所見：この腫瘍組織は腫瘍細胞が密に索状あるいは胞巣状に浸潤性に増殖している。また既存の横紋筋線維に沿って筋芽細胞が増殖し，連珠状あるいは巨細胞化を呈しておる。

腫瘍細胞の形態は，胞巣状の増殖部で，HE染色で，淡明な大型細胞と，比較的好染している細胞などから成り，個々の細胞の輪郭は不明瞭で，ひしめき合っている（Fig.1, ×200, HE）。また核が偏在性で，胞体は一端に突出している。染色性は骨格筋と類似し，横紋様の構造もわずかに認められる（Fig.2, ×400, HE）。そして中には既存の横紋筋線維の一端で多核となり，合胞体を形成したり，あるいは連珠状を呈している（Fig.4, ×1000, PTAH）。腫瘍細胞の核についてみると，淡明な大型細胞の核は原

形質と同様に淡染し，楕円形～類円形を呈し，中には核濃縮しているものもある。また腫瘍細胞によっては突起を三方に出し，核は不規則にくびれ，時には不定形な合胞体を形成している。腫瘍細胞の原形質内にエオジンに好染し，PAS陽性の顆粒が認められることもある。

頭骨との癒着部においては，骨組織内に腫瘍細胞が浸潤性に増殖しておる。この部の腫瘍細胞は多角形あるいは紡錘形で，HEで好染し（Fig.3, ×400, HE），部位により筋芽細胞様の淡明な胞体をもった腫瘍細胞などから成っている。

鍍銀染色では部位により明瞭な胞巣状構造を呈し，胞巣内に好銀線維の断片が単在あるいは散在していることもある。また腫瘍細胞の間に好銀線維がよく発達している。

電顕的には腫瘍細胞質内にミオフィラメントが著明に形成され，デンスな部分が認められZ帯に相当するものと考えられる。またアクチン線維とミオシン線維が認められる。

診断：以上の所見より胞巣状横紋筋肉腫（alveolar rhabdomyosarcoma）と診断された。その他2, 3の診断名が提案されていたが，横紋筋肉腫を否定するような特徴ある所見は認められなかった。